

東京都弱視教育研究会

東京都弱視教育研究会は、都内の都立盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校、都内弱視通級指導学級12校（小学校9校、中学校3校）により構成され、弱視児童・生徒が視覚障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を身に付けられる効果的な指導内容・方法について主題を設定して研究活動を行っています。

令和2年度研究主題

「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」
—「主体的・対話的で深い学び」思考を伴う活動を取り入れた指導について—

研究授業

第1回 令和2年10月30日(金) 葛飾区立立石中学校

題材名 「自分の見やすい地図を作ろう」

指導講師 広島大学 准教授 氏間 和仁先生

※オンラインでの実施

地図は情報量が多く複雑なレイアウトであり、見えにくさのある児童・生徒にとって知りたい情報を的確につかむことに困難が生じやすい。さらに、色覚異常のある者には、色鮮やかな地図の読み取りはなおさら困難さが現れるものである。そこで、自身の視覚特性の理解を深めること、視覚特性を踏まえて必要な配慮を要請する力につなげていくことをねらいに設定した。白地図に色を塗り分けていく中で、「自分にとって見やすい配色」の気づきを促す展開が印象的であった。

指導講師からは、児童・生徒の見え方について正確な情報を持ち、色覚の捉え方や見やすさに配慮することが大切である、というお話があった。

第2回 令和3年1月14日(木) 世田谷区立笹原小学校

資料提供

自校の実践事例を発表し、弱視教育に関する研修・情報交換を行う。

令和2年6月 足立区立足立小学校

・アニメーション機能を活用した、単眼鏡練習教材
・道村式漢字学習

令和2年7月 大田区立東調布第三小学校

・傾斜机に置くボード、パーファイル
・わかたけ給食
・「よく見てみよう」
・展覧会の作品

令和2年7月 都立葛飾盲学校

・不要なシンボルの除去
・シンボルマークの統一
・動画資料の活用 ※公開授業の代替

講演会・研修会

① 専門性向上研修

令和2年10月5日(月)

演題：「T式視距離調節学習についての紹介」

講師：筑波大学附属視覚特別支援学校

山田 毅先生

② 研究全体会

令和2年12月7日(月)

演題：「自己理解について」

講師：愛知教育大学 講師 相羽 大輔先生

【日本弱視教育研究会オンライン研修会】

開催期間：令和3年1月22日(金)～3月5日(金)

後援(予定)：文部科学省、全国盲学校長会

① 教育講座

演題：「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」

講師：世田谷区立笹原小学校 主任教諭 川嶋 栄子

② 実践紹介(指導実践)

演題：「足立小学校弱視通級指導学級(目の教室)の紹介と指導の実践」

講師：足立区立足立小学校 目の教室担任

研究調査

「視覚補助具の活用状況に関する実態調査」

【対象】 都内盲学校・視覚特別支援学校
都内弱視通級指導学級担任

【方法】 アンケート調査

【内容】 視覚補助具の多様化・機能の進化に伴い、児童・生徒は障害の程度や発達段階に合わせた効果的な視覚補助具を選択できるようになってきた。なかでも、タブレット端末が普及してきたことで、タブレット端末を活用する児童・生徒も増加傾向にある。今回の調査では、対象とした学校・学級に在籍する弱視児童・生徒の視覚補助具の活用の実態を把握し、その結果を共有することで、今後の指導や保護者への助言などに役立てる。

代表者
練馬区立中村西小学校
校長 瀧嶋 克己

連絡先
練馬区立中村西小学校
主任教諭 尾崎 公江
03(3990)4254(直通)